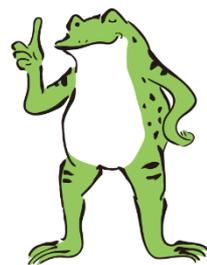


成均館・吉林大学交流プログラムとは



成均館・吉林大学交流プログラムって何？
どういうもの？

もともとは、岡山大学の初修外国語系が、春季休業期間を利用して、韓国の成均館大学校の日本語を学ぶ大学生を対象に実施していた日本語と日本文化の体験プログラムで、コロナ前までは実際に岡山大学に来て学んでいたんです。2019年度は、中国の吉林大学の学生さんも加えて実施する予定でしたが、コロナの流行で残念ながら中止となりました。そして、**2020年度からはオンライン・リアルタイム形式で再開**し、今年も実施されるのです。



え、でも韓国と中国の大学生のためのプログラムなら、岡大生は関係ないんじゃない？

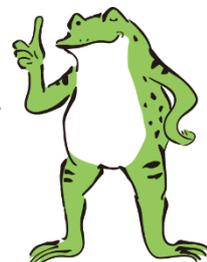
岡山に来て実施されていた時は、岡大生からボランティアを募集して、来日した学生さん達のサポートをしてもらっていました。しかし、オンライン形式になってからは、岡大生の果たす役割がかなり大きくなったため、**春季集中講義として履修生を募集**し、参加度によって**単位(修了認定)※**を出す、という仕組みに変わりました。成均館・吉林の学生が日本語を共通言語として交流するのをサポートするだけでなく、自分たちも一緒に学ぶ、いう意識を持ってもらいたい、と考えているからです。

※「知的理解(現代と社会)」1単位



要するに韓国と中国の学生、それと他の岡大生と一緒に、何かをするってことだね？単位ももらえるし、ちょっと面白そう!!授業はどんな感じにするのかもちょっと詳しく教えて!!

日程などの詳細は募集要項を見てもらうとして…。授業は基本的に**Zoomを用いたリアルタイム形式**です。初日は一緒に勉強する仲間を知るために、**3カ国の学生をシャッフルした少人数グループによるテーマトーク**を、時間を区切って3回程度実施します。ちなみに、昨年度のテーマは「一週間に食べたもの」「好きなもの・ひと」「好きな場所」でした。



一週間に食べたもの…にんじん Onlyになるけどいいのかな…？
じゃあ2日目からは何をするの？

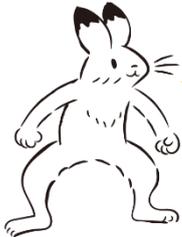
うさぎですもんね。でもたまにはキャベツとかも食べましょう。それはともかく、2日目以降は、午前中は全体を半分に分けて、二人の日本語の先生による講義とディスカッション、午後は最終日のグループ発表に向けた準備、が基本です。





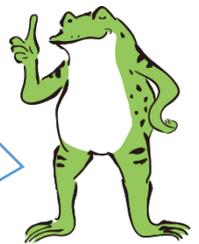
講義とディスカッションはともかく…最終日のグループ発表って何?!

興味・関心によって、原則日中韓 1人ずつの3人グループにわけ、自分たちでテーマを考えてPPTを用いた資料を作り、日本語でプレゼンテーションをする、というのがこのプログラムのメインなのです。初日のアイスブレイクや2日目からの講義はそのための準備、だと思ってもらえばよいかと。

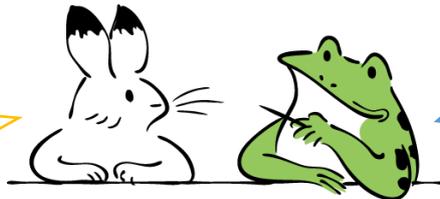


発表テーマは何でも良いの?例えば日中韓のにんじんの味の違いについてとか…!?

にんじんの味にどこまで違いがあるか分かりませんが、まあ他の2国のメンバーがOKしてくれるのであれば、それでも構いません。ちなみに、最終発表では成均館と吉林の学生がプログラムでの日本語学習の仕上げとして、プレゼンを担当します。岡大生は、発表原稿作成のサポートと、日本語チェック等を担当し、発表当日には司会役をしてもらう予定です。



面白そうなテーマがあるなあ…



授業と最終発表のスライドを少し紹介しておきましょう。

デジタルクローン

時間が足りない
・しごと

→オンラインでできることを、クローンがやってくれる
AI



授業テーマ:デジタルクローン

K-POPのトレンド変化

トレンドを変えたテレビ番組



2012年~ HIPHOP 「SHOW ME THE MONEY」
2019 ~ 2020年 トロット 「ミス&ミスタートロット」
2021年 ダンス 「ストリートウーマンファイター」

最終発表テーマ:音楽のトレンドと K-POP

家族のつながりが薄くなっていることには、どのような背景があるのでしょうか?

1970s 1970年代 1970년대	1980s 1980年代 1980년대	1990s 1990年代 1990년대
<p>家父長制家族 家父長制 가족</p> <p>共同体 Community</p> <p>父 母 子</p> <p>共同体的なルール ● 共同体のルール ● 家族の絆 ● 強い父親</p> <p>共同体的責任 ● 共同体的責任 ● 共同体的責任</p>	<p>核家族 ニューフAMILY</p> <p>消費社会 Consumer Society</p> <p>父 母 子</p> <p>消費社会 ● 消費社会 ● 消費社会</p> <p>消費社会 ● 消費社会 ● 消費社会</p>	<p>フラット家族 Non-hierarchical Family</p> <p>プライベート関係 Private relationships</p> <p>父 母 子</p> <p>個人主義 自己責任 ● 個人主義 ● 個人主義</p> <p>個人主義 ● 個人主義 ● 個人主義</p>

実家に帰りたくない? or 仕事などが忙しくて帰れない!

最終発表テーマ:「家族のつながり」について

ヘアクリップ 집게핀 鲨鱼夹

昔:お風呂で使用

今:ファッション



最終発表テーマ:流行について



でもこれだけのことをオンラインで一週間ちょっとの授業だけでやるのは大変そう…予習や課題も多いのかな？

日本語を用いたディスカッションがメインなので、ディスカッションのための予習はそれなりに時間がかかります。でも、ディスカッションテーマはプログラム開始前に提示するので、自分のペースで少しずつ進めておくことが可能です。また、グループを決めたときに、メンバー同士での連絡方法を相談し、授業外での交流が可能なようにしてもらっています。自分たちで Zoom 会議を開いて、みんなでおしゃべりしながら作業した、というグループもありましたよ。



初修外国語で中国語取ってるから、せっかく中国の大学生と一緒に授業を受けるなら、ちょっとくらいは使ってみたいんだけど…そういう日本語以外を使う機会もある？

参加者からのそういう声に応じて、昨年度から試験的に岡大生がそれぞれの学習言語（中国語・韓国語）だけでネイティブの学生と会話してみる、という時間を取り入れています。みなさんが生きていくこれからの世界では、様々な言語を母語とする人と一緒に何かをする、という機会がますます増えていくことでしょう。このプログラムは日本語が共通言語ではありますが、全参加者がネイティブの立場と学習者の立場、どちらもを経験することで、お互いに配慮しあって、より良く協力し、物事を成し遂げることができるようになって欲しいと思っています。



なるほどね…みんな「ある言語のネイティブであり別の言語の学習者」ってことを意識しながら交流するってことだね。中国語まだ全然話せないけど、ちょっと頑張ってみようかな…。

日本人はとにかく学習言語を「上手に話さなければならない」と思いがちですが、私たちは文法の知識や流暢さよりも、たとえスムーズに会話ができなくても、互いに協力し、途中で放棄することなくコミュニケーションを続けていく姿勢を身につけることが、よりいっそう大切だと考えています。このプログラムは、そのための練習の場の一つとなることを目指して企画されました。たくさんの方のみなさんのご応募をお待ちしています!!



お待ちしております!!

お問い合わせ・お申し込み

岡山大学教育推進機構初修外国語系
藤原祐子

yueya1222@okayama-u.ac.jp

参加者の声 (抜粋・原文ママ)

大変ではありましたが、やりがいを感じました。チームメンバーとの交流が必須になるので、仲も深まりやすかったように思います。

本当に参加してよかったと思った。日本語を学習して話している人たちを見て、自分も外国語を頑張ろうという気持ちになった。

日本語がみんな上手で自分も外国語の勉強を頑張ろうと感化された。学習意欲が高まった。これが一番自分のなかで大きかったと感じる。自分も含めてお互いがお互いの話をしっかり聞いて理解しようとする努力ができて異文化理解の最も大事な部分を再確認できた。

他大学、他国の生徒と交流することが今までなかったのがとても貴重な経験になったと思います。相手の国についてそこで実際に生活している人から聞くことが出来て良かったです。また、分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかなど自分の日本語の表現を見直すこともできました。

言語別ディスカッションは、互いに立場が変わって気づくことも多かったと思うので、今後も続けてほしいです。



今まで夢見てきた日本の学生たちとの交流が成功してとても嬉しいです。当初目指していた日本と中国文化でお互いの違いと共有できる点を感じました。

同じ話題に対する三カ国の人の違う観点が身にしみたのです。生活習慣と価値観の差を感じるようになって面白いと思います。日本語の実力もずいぶん向上したようです。

日本語で中国の大学生と話す機会を持つことができて楽しかったです。日本語という共通の興味を共有しているので、色々話しながら他の観点で沢山のことがわかりました。

三つの国の共通点と相違点を発見しました。三つの国は歴史と文化の上で深い交流がありました。将来三つの国の若者と友好の架け橋を築いていきたい。実際の日本語と試験中の日本語は違った感じがします。日本語の勉強に対して新しい見解を持った。

経営的な話もするし、社会的な話もするし、各国の文化と慣習について話す時間になって、相互理解できました。そして、5日間、日本語でディスカッションをしながら、自信がつかしました。

【参考文献】

- ・『真のダイバーシティをめざして—特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』
Diane J. Goodman (原著), 出口 真紀子 (翻訳), 田辺 希久子 (翻訳)
- ・NHK 福祉情報サイトハートネット「あなたは優位な立場かもしれない 気づきにくい“特権”とは」
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/674/>
- ・『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』 ブレイディ みかこ (著)